

3:14 また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。『アーメンである方、忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源である方がこう言われる。 3:15 「わたしは、あなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく、熱くもない。わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。 3:16 このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出そう。 3:17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。 3:18 わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥を現さないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。 3:19 わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。 3:20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。 3:21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。 3:22 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』』」

## 導入

今日で、7つの教会への手紙は最後です。

この手紙は、ラオデキヤの教会に宛てられたものです。

ラオデキヤの町は、重要な位置にありました。

地形の関係で、すべての道はラオデキヤのあるリュコス溪谷を通過しなければなりませんでした。

そういうわけで、ラオデキヤは古代の大商業都市のひとつでした。

この町の不利な条件として挙げられるのは、10km 離れた泉から地下水路をとおして水を供給しなければならなかったことです。

平和なときはこれで何も問題はありますが、戦乱が起これると、容易に水の供給を敵に止められてしまいます。

また、水が町に届くまでに距離があるため、町の水はなまぬるい状態でした。

この背景が、この町の信徒たちの状態を表す霊的な意味合いを与えました。

ラオデキヤは、金融、衣服の製造業、医療機関などが町にあることで知られました。そこには多くのユダヤ人も暮らしていました。(成人男性が少なくとも 7,500 名)

ラオデキヤの教会は、その霊性についてイエスがひとつも褒めなかった唯一の教会です。

他の手紙と同様、冒頭にはイエス・キリストの称号が並びます。ここからまず見ていきましょう。

## 1. イエスの偉大な称号 (14 節)

### a) イエスは「アーメンである方」

これは、不思議な称号です。

その由来はふたつの可能性が考えられます。まず、イザヤ書 65 : 16 で神は「まことの神」と記されています。ヘブル語では、「アーメンの神」と呼ばれます。

アーメンとは、厳粛な言葉の最後にその真実性を保証するために使われます。

神が「アーメン」である神と呼ばれるということは、完全に頼れるお方だということです。つまり、イエス・キリストが約束なさったことは疑いの余地のない真実であることを意味します。

次に、もうひとつの可能性はヨハネの福音書に見ることができます。

イエスの言葉は「まことに、まことに、あなたがたに告げます。…」と始まることがあります。(ヨハネ 1 : 51、3 : 3,5,11)

「まことに」を意味するギリシャ語が「アーメン」です。

言い換えると、イエスが語られる言葉や約束は信頼できるということです。

どちらの由来を取っても同じ意味に至ります。

b) イエスは、「忠実で、真実な証人」である。

証人は3つの必須条件を満たしていなければなりません。

まず、自分の目で目撃したことを語らなければなりません。

次に、自分が見聞きしたことを正確かつ100%正直に語らなければなりません。

最後に、証人は事実に即した印象を聞く人に残すよう語れる必要があります。

イエス・キリストはこの条件すべてを満たしておられました。

イエスは神について語ることがおできになります。それは、イエスが神のもとから来られたお方だからです。

私たちは、イエスのことばを信頼することができます。

c) イエスは、「神に造られたものの根源である方」である。

ここで根源と訳されたギリシャ語の単語は「アルケー」です。

これは、始まりや起源という意味です。

ここでは、イエス・キリストにこの世のすべてのもののルーツがあるという意味です。

ヨハネ 1:3 すべてのもは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。

コロサイ 1:15、18

1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。

1:18 また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。

2. イエスが、霊の状態について教会に呼びかけられる。(15-17 節)

イエスは、ふたつのことで教会を非難されます。

まず、彼らが熱くも冷たくもないとおっしゃいます。なまぬるい状態です。イエスは彼らの霊の状態に気をもみ、「口からあなたを吐きだそう」とおっしゃいました。

先日、私たちの教会員で何人かに嘔吐の症状がありました。丸一日ほどは水を飲んでも戻すほどですから、たいへんです。

イエスは、なまぬるい霊性を吐きだすほど嫌われます。

導入部分でお話したとおり、この町の水はなまぬるい状態だったので、イエスはこのようにたとえておっしゃったのでしょうか。

また、町の近くには有名な温泉がありました。

ミネラル成分たっぷりのここの温泉水を飲むと、吐き気を催しました。

イエス・キリストがこのように反応されることは、私たちに対する強い呼びかけでもあります。

私たちはなまぬるい教会生活を送っていないでしょうか。

なぜなまぬるい教会に対してイエスはそれほど気をもまれるのかと疑問に思いますか。

「なまぬるい」キリスト教とは何でしょう。

イエスがここでおっしゃっていることを理解するのが大切です。

ここでまず私たちが気づかなければいけないことは、真のキリスト教とはイエスをとおして聖霊の力によってもたらされる神との「関係」であるということです。

ですから、関係という観点からこの個所を見なければなりません。

次に注目すべきことは、教会が冷たいか熱いかであってほしいとイエスがおっしゃったことです。

熱いというのは理解できますが、なぜ冷たいのがよいのでしょうか。

「関係」という視点に戻ることによってその答えがわかります。

関係で大切なのは正直であることです。

正直でない、うそのある関係を好む人はいません。

私たちがイエスとの関係で正直であることを、イエスは望まれます。

正直にイエスのもとに行って助けを求めてもよいのです。

神のために熱く燃え、神に仕えたいと願い、神のために犠牲を払っているのはよいことです。しかし、それでも私たちには神の助けが必要です。

「なまぬるい」状態というのは、自分は大丈夫という状態です。

神がいなくても神の助けがなくてもやっていけるという状態です。

教会に来て、たまには献金をして、体裁は整えても、それではイエスと生きた関係を持っているとは言えません。

うそが好きなのはいいです。もちろんイエスもそうです。

クリスチャンだと言いながら聖書に従わず、イエスと生きた関係を持たない人をイエスは嫌われます。

しかし、そのような人たちのために解決策があります。それは後ほど見ることにしましょう。次に、この「なまぬるい」教会にイエスが呼びかけられたもうひとつの内容を見ていきましょう。

17節で、イエスはこの教会が裕福で神から何も必要としていないことを示されます。

この町は金融業や服飾産業で潤っていました。

富は、真のクリスチャン生活にとっては常に乗り越えるべき課題です。

これは、裕福な国よりも貧しい国でキリスト教が広まりやすい原因のひとつです。

教会の信徒たちは、自分たちが富んでいると考えました。金銭や物質の富を霊的な富と勘違いしたからです。

金銭や物質の富は、霊的に成熟しているしるしではありません。

それは、ルカ 16：19-31にある裕福な人とラザロの話を読めばわかります。

霊的に健全な生き方とは、完全にイエスに頼る生き方です。

古代ギリシャから伝わるイソップ物語に、欲張りな犬という話があります。

犬は骨を口にくわえていたのですが、川の水に映る自分の姿を見て、「もう一匹の犬」がくわえている骨が欲しくなりました。

犬は水面に映る自分に向かって吠えました。そして、骨を川に落としてしまいました。

犬は、実際には存在しないものを追い求めたせいですべてを失ってしまいました。

ラオデキヤの教会の姿をうまくあらわした話です。

教会の信徒たちは、神の約束だけで満足しませんでした。彼らは、富によってこの世の力を手にしました。裕福にはなりましたが、霊的に乏しい者となってしまいました。

最終的には、富も失い、霊においても何も得られないこととなります。

ここにいる皆さんには、信仰生活を犠牲にして物質的な富を追い求める人がいないことを願います。

しかし、もしそうなっているなら、今日のみことばを警告として受け取ってください。

### 3. イエスが、なまぬるい教会に対する解決策を提示される。(18-20節)

では、18-20節から、「なまぬるい」教会への解決策を見ていきましょう。

まず私たちが知らなければならないことは、イエスがなまぬるい教会を愛しておられたことです。愛しているからこそ、変わってほしいと望まれたのです。

イエスが愛する人たちを懲らしめられるのは、聖書で一貫した考え方です。

箴言 3:12 父がかわいがる子をしかるように、【主】は愛する者をしかる。

ギリシャ語訳では、ここで使われている愛という単語はアガペーからフィレインに変わっています。

この単語は、優しく愛情のこもった愛を指します。

スコットランドの聖書注解者はこの箇所を次のように言い換えています。

「私にとってもっとも親愛なる人々に対して、私はもっとも厳しいしつけを実行する。」

次に注目すべきなのは、「懲らしめる」という単語です。

ここで使われているギリシャ語の単語は、相手に過ちを何としても気付かせるような懲らしめを指します。

旧約聖書にその一例が記されています。

サムエル第二 12 : 1-14 を読みましょう。

12:1 【主】がナタンをダビデのところに遣わされたので、彼はダビデのところに来て言った。「ある町にふたりの人がいました。ひとは富んでいる人、ひとは貧しい人でした。12:2 富んでいる人には、非常に多くの羊と牛の群れがありますが、12:3 貧しい人は、自分で買って来て育てた一頭の小さな雌の子羊のほかは、何も持っていませんでした。子羊は彼とその子どもたちといっしょに暮らし、彼と同じ食物を食べ、同じ杯から飲み、彼のふとこでやすみ、まるで彼の娘のようでした。12:4 あるとき、富んでいる人のところにひとりの旅人が来ました。彼は自分のところに来た旅人のために自分の羊や牛の群れから取って調理するのを惜しみ、貧しい人の雌の子羊を取り上げて、自分のところに来た人のために調理しました。」12:5 すると、ダビデは、その男に対して激しい怒りを燃やし、ナタンに言った。「【主】は生きておられる。そんなことをした男は死刑だ。12:6 その男は、あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の子羊を四倍にして償わなければならない。」12:7 ナタンはダビデに言った。「あなたがその男です。イスラエルの神、【主】はこう仰せられる。『わたしはあなたに油をそそいで、イスラエルの王とし、サウルの手からあなたを救い出した。12:8 さらに、あなたの主人の家を与え、あなたの主人の妻たちをあなたのふところに渡し、イスラエルとユダの家も与えた。それでも少ないというのなら、わたしはあなたにもっと多くのものを増し加えたであろう。12:9 それなのに、どうしてあなたは【主】のことばをさげすみ、わたしの目の前に悪を行ったのか。あなたはヘテ人ウリヤを剣で打ち、その妻を自分の妻にした。あなたが彼をアモン人の剣で切り殺したのだ。12:10 今や剣は、いつまでもあなたの家から離れない。あなたがわたしをさげすみ、ヘテ人ウリヤの妻を取り、自分の妻にしたからである。』12:11 【主】はこう仰せられる。『聞け。わたしはあなたの家の中から、あなたの上にわざわいを引き起こす。あなたの妻たちをあなたの目の前で取り上げ、あなたの友に与えよう。その人は、白昼公然と、あなたの妻たちと寝るようになる。12:12 あなたは隠れて、それをしたが、わたしはイスラエル全部の前で、太陽の前で、このことを行おう。』12:13 ダビデはナタンに言った。「私は【主】に対して罪を犯した。」ナタンはダビデに言った。「【主】もまた、あなたの罪を見過ごしてくださった。あなたは死なない。12:14 しかし、あなたはこのことによって、【主】の敵に大いに侮りの心を起こさせたので、あなたに生まれる子は必ず死ぬ。」

神の懲らしめは、罰というよりも「光を当てる」ものです。

私たちがどこで間違ったのかしっかり見ることができればよいからです。

霊の目は肉眼とは異なります。

私たちは子どもをしつけますが、神も同じように私たちが愛してしつけてくださいます。

我が子が人生を棒に振ってもよいなら、しつけはしないでしょ。けれども、子どもがいろんなことを学んで役に立つ人へと成長することを望むなら、しつけや訓練が必要です。

トップアスリートや洗練された学者たちは、誰よりも厳しいトレーニングや訓練を受けます。神の懲らしめは、感謝すべきものであって、憎むべきものではありません。

イエスは教会の信徒たちに熱心になって悔い改めなさいと語られます。(19節)

悔い改めは、私たちが自分自身についての考えを変えるところから始まります。

自分なりの見方ではなく、神がご覧になるように自分自身を見るのです。  
ラオデキヤの教会の信徒たちは裕福で、神を必要としていないと思っていました。  
ですから、その態度を改める必要がありました。  
今日皆さんも、日常生活でイエス・キリストの必要性を感じていないかもしれません。もしこれが自分に当てはまるなら、その考えを改める必要があります。  
罪から私たちを救える人は他に誰もいないのですから。  
それができるのはイエスだけです。（使徒 4：12）  
悔い改めは、考えを改めるだけではありません。これに加えて、方向転換する必要があります。  
つまり、正しい方向に向かって歩み始めるのです。  
イエスは 18 節で、教会の信徒たちに、火で精錬された金をわたしから買いなさいとおっしゃいました。  
金はもっとも尊い貴金属です。  
精錬するためには高温で熱し、浮き上がってくる不純物を取り除きます。  
そして、残されたものが純金です。  
イエスだけが、私たちの中にある不純物を取り除き、天国にふさわしく整えることのできるお方です。

#### 4. イエスは、ラオデキヤの信徒たちが悔い改めるなら報いを与えてくださる。

20 節で、イエスはラオデキヤの教会の信徒たちに次のように申し出られます。

3:20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

これは、新約聖書でもっともよく知られた描写のひとつです。  
それは、イエス・キリストが懇願しておられる姿です。イエスが人間の心の扉の外に立ち、扉を叩いておられるのです。  
世界中どこにも、追い求める神を描く宗教はありません。  
キリスト教と他の宗教とのこの違いを、日本キリスト教協議会は何年も前にドキュメンタリー映像で説明しようと試みました。  
その説明は次のようなものでした。  
「人が神を求めるのではなく、先に神が人を求めるのである。」  
私たちがどれだけ朝早く起きて祈っても、神はすでに私たちを待っていてくださいます。  
もしかすると、イエスは今日あなたの心の扉を叩いておられるのではありませんか。  
イエスを心の中にお迎えしますか。  
ドアの取っ手はあなたがいる内側にしかついていません。ですから、イエスに入っていくには、あなたが扉を開けて、自分の心と人生にイエスを迎え入れる必要があります。  
イエスの約束は、そこに入っていっしょに食事をするというものです。  
ここで使われたギリシャ語の単語は夕食を指します。  
イエスは、栄養たっぷりの食事を約束してくださいます。  
イエスはここで、充実した人生を私たちに約束しておられます。  
自分の思いどおりの道を歩む選択もできますが、それでは充実した人生や天国での永遠は得られません。  
イエスを拒めば、生きる意味を探し続けてもずっと見つからない人生を送るでしょう。  
ラオデキヤの教会で悔い改める信徒たちに与えられる最後の約束は、イエスとともに王座に座するというものです。  
これはどういう意味でしょう。  
これを正しく捉えるには、東洋の王座が一人用の椅子というよりはソファに近いものだったことを覚えておく必要があります。  
つまり、イエスがおられるところどこにでも私たちもいられるということです。

最後に 22 節でイエスは次のようにおっしゃいました。

3:22 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」』」

この表現は、読み手や聞き手に「これは私たちのことだ」と分からせるためです。説教や聖書のメッセージを聞いても、「あの人にぴったりの内容だ」などと言って自分のこととして受け止めないことがよくあります。

イエスがあなたの心に語りかけられたなら、それはあなたに当てはまることなのです。これらの手紙は 2,000 年前の教会に宛てて書かれたものですが、2016 年の現代の教会にも当てはまる内容です。

神に助けをいただいで、私たちがこれらのメッセージを自分のこととして生活に応用できますように。

アーメン。